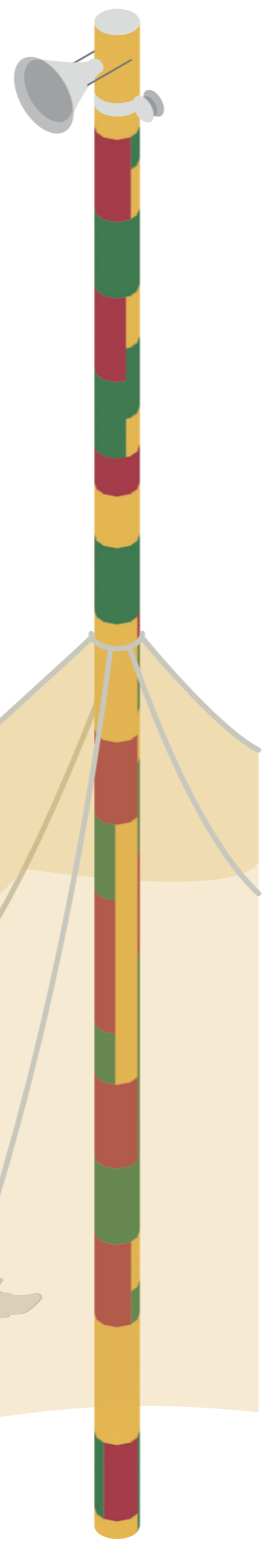


ART POLE

既存のパブリックアートや
 灘の町並みのアート化
 沿道周辺の店舗の広告活動やマルシェ
 その他多くの芸術
 文化のアウトプット活動を支える
アートのインフラ設備を提案する

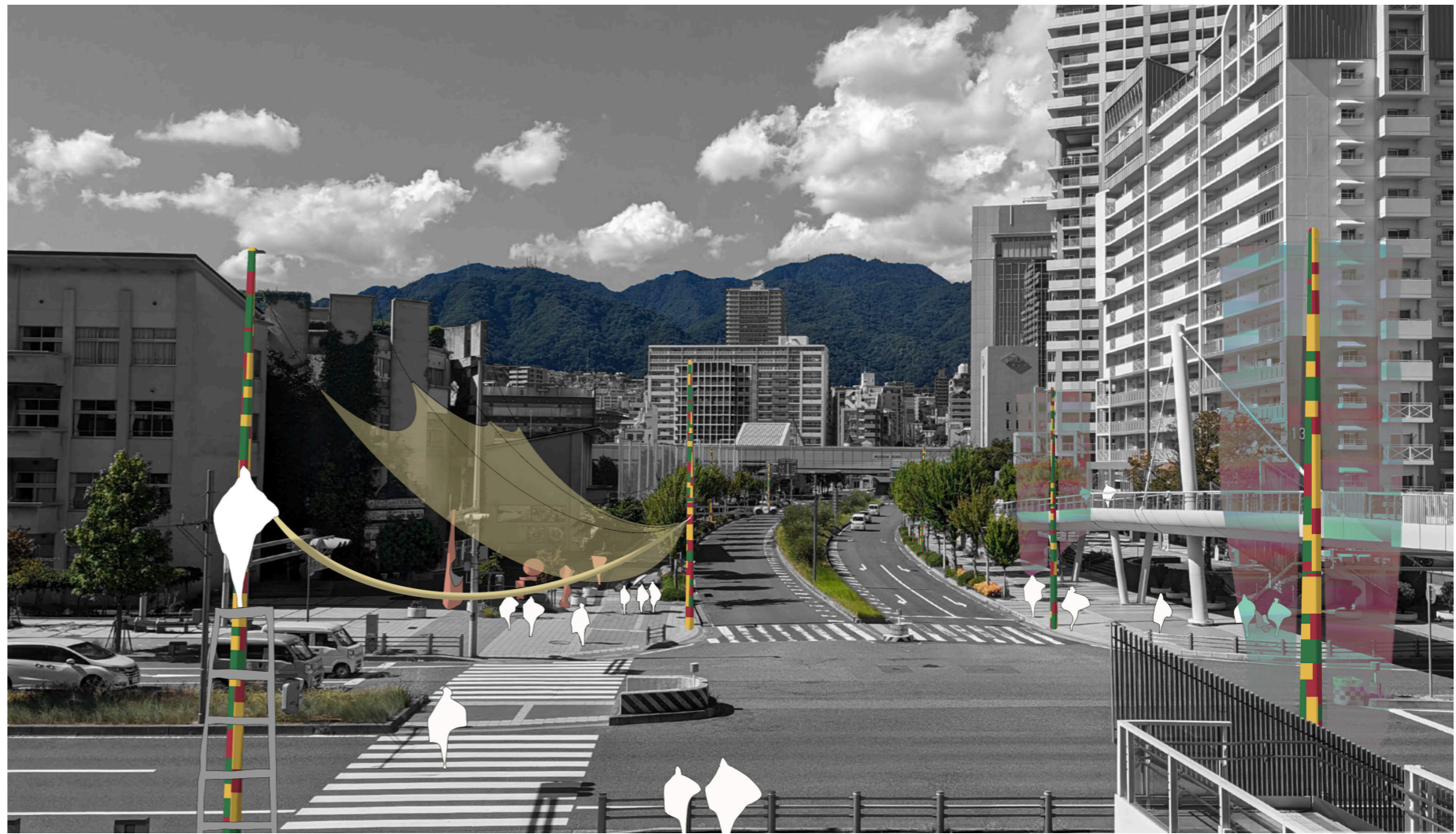


布

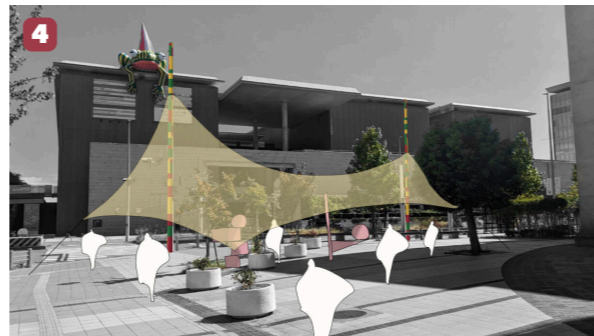
1/50 アイソメ

美かえる

兵庫県立美術館



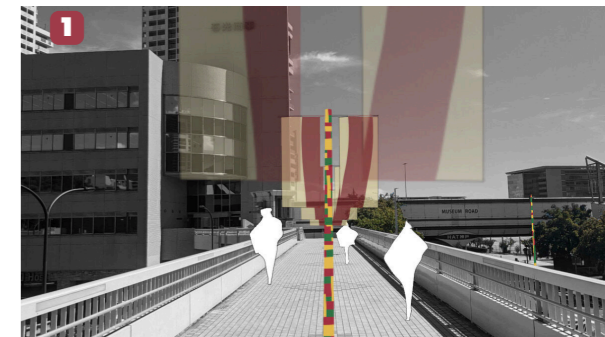
兵庫県立美術館」から見たミュージアムロード ミュージアムロード中に設けられた Art Pole がアート活動を支える



「神戸市立渚中学校」校門前、屋根下空間が中学生の作品のギャラリーや憩いの場となる



PEASE CRACKER



「はつとなぎさ歩道橋」の中心に Art Pole が立ち、ギャラリー空間となる

阪神高速3号神戸線
 Hanshin Expressway No.3 Kobe Line

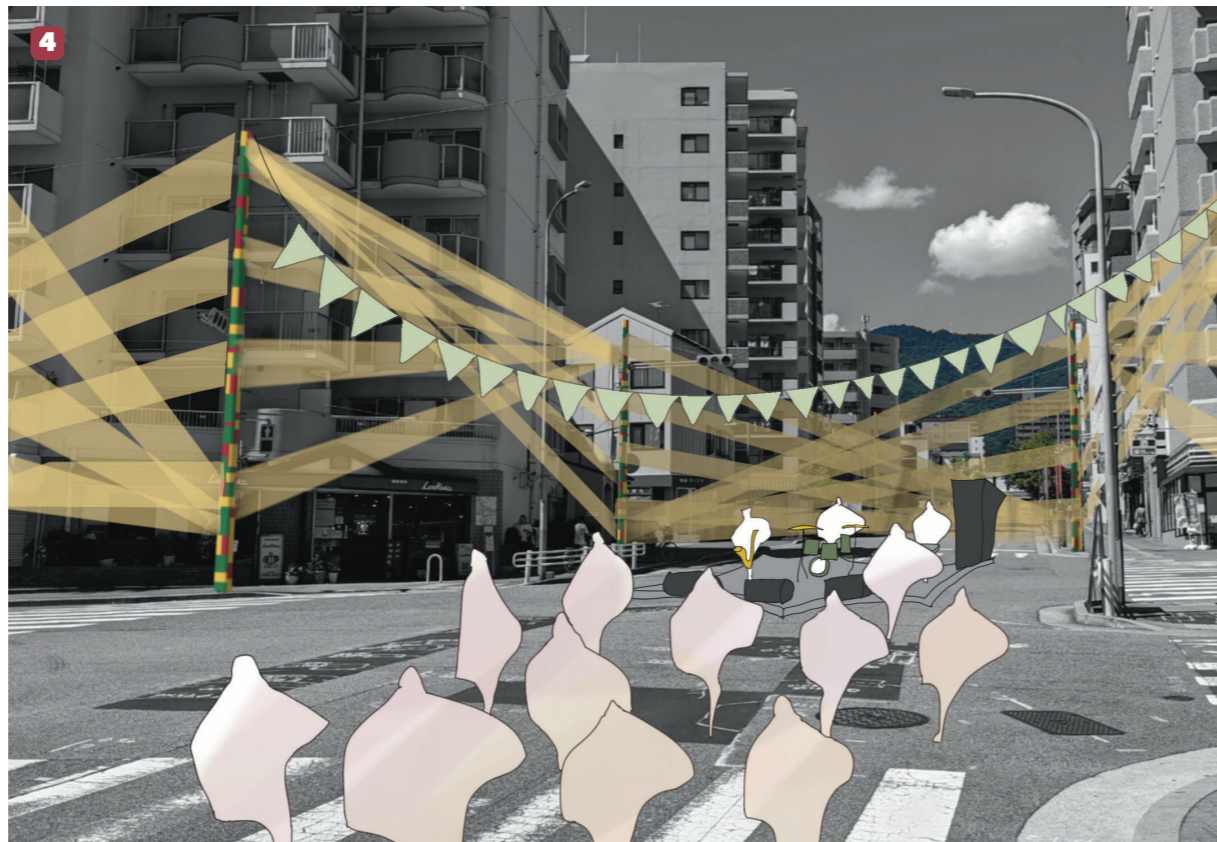
Background

1-1 ミュージアムロード

2010年に兵庫県立美術館から神戸市王子動物園までの道路が「ミュージアムロード」と命名され、美術館の「無料ゾーン」として様々な取り組みがなされてきた。パブリックアートの設置や美かえるカラフルプロジェクト、沿道の飲食店舗の参画に伴った散策マップの作製などが行われてきた。

1-2 主体的アート

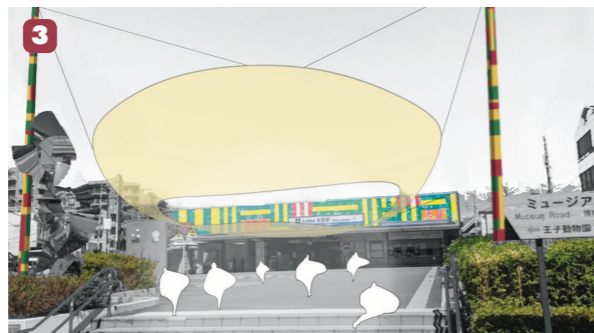
ミュージアムロード周辺には、神戸文学館・横尾忠則現代美術館・兵庫県立美術館王子分館、原田の森ギャラリー、王子動物園、BBプラザ美術館、兵庫県立美術館など多くの文化施設で充実している。それら美術館及び動物園では展示物を鑑賞するという行為が行われる。ミュージアムロードにとって、鑑賞した感覚や感情を自分の中で消化する空間や、自身の考えを主体的に表現する空間が芸術・文化活動に重要であると考える。



「阪神岩屋駅」前の交差点
イベント時には通行止めを行い交差点にステージが現れる。アートだけでなく音楽やダンスなどのパフォーマンスも芸術・文化活動も Art Pole は支える



「BBプラザ神戸」のガラスにアートが展示されている布で屋根を設けることで日陰のギャラリーとなる



「阪神岩屋駅」前、大きな穴の開いた布の屋根で広場を覆い、最も開けた空の見える空間を切り取る



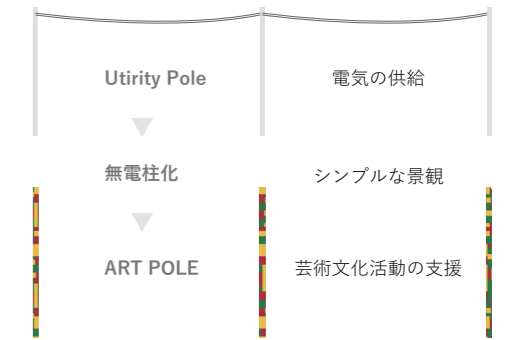
「臨港線跡」電車の形で穴の開いた布が、かつてこの場所を電車が走っていたことを思い出させる

Design

3-1 Utility Pole から Art Pole

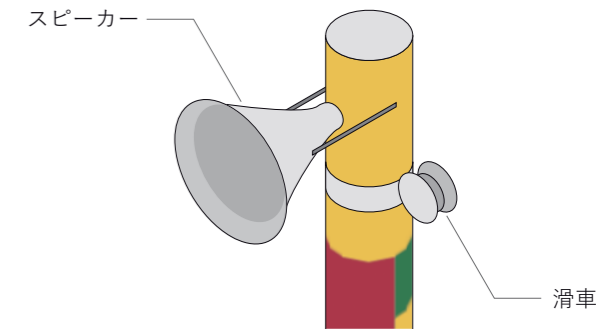
無電柱化したミュージアムロードに、新たに芸術文化活動を支える Art Pole を計画する。

Art Pole の設置間隔や太さは一般的な電柱と同じように、根元の太さ 300mm、間隔は 30m で設置する。色彩計画は「美かえる」から抽出した、赤、黄、緑の三色を用い、ミュージアムロードが美術館や動物園に来場者を案内する。



3-2 掲揚ポールとしての Art Pole

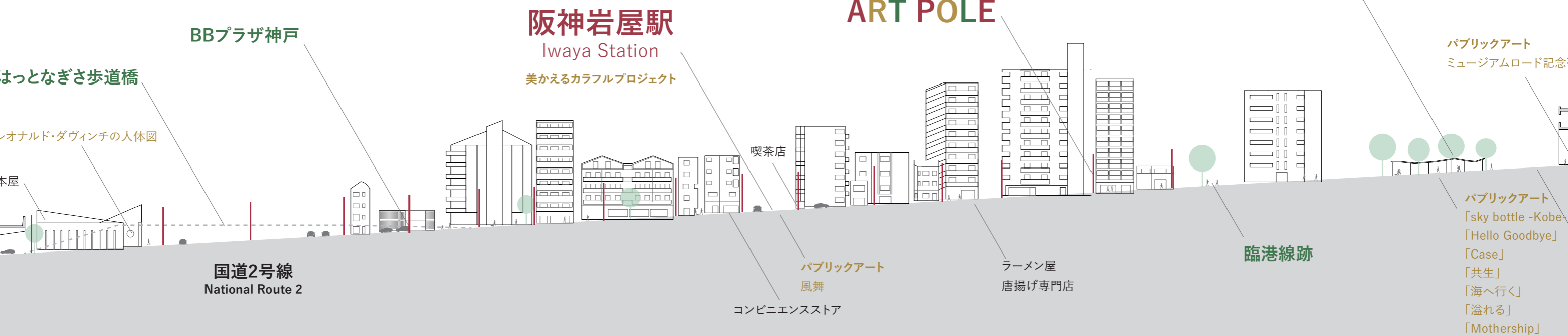
Art Pole には旗を掲揚するための滑車とロープがついており、布を使ってミュージアムロードを可変的に空間デザインすることが可能となる。またスピーカーも Art Pole には取り付けられており、音においても芸術文化活動のサポートを行う。



「灘駅前南広場」から美術館に向かって Art Pole は並び始める



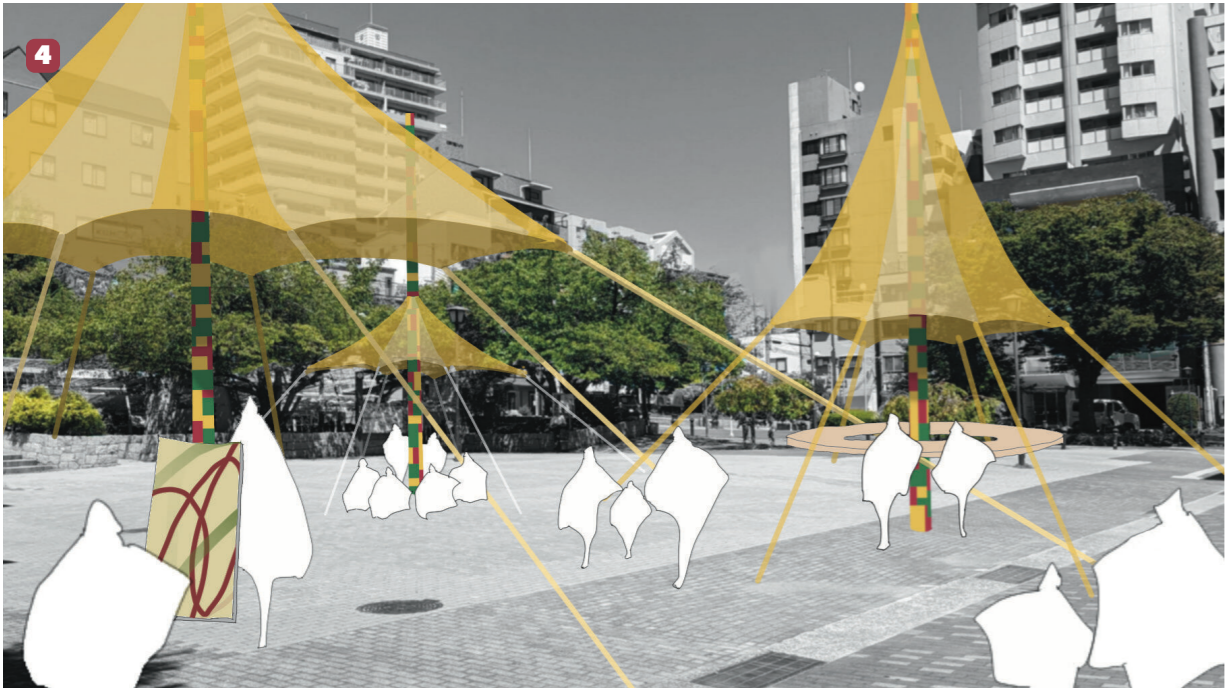
「JR 灘駅」柱が Art Pole のように装飾され、芸術・文化の街の玄関口として機能する



Operations

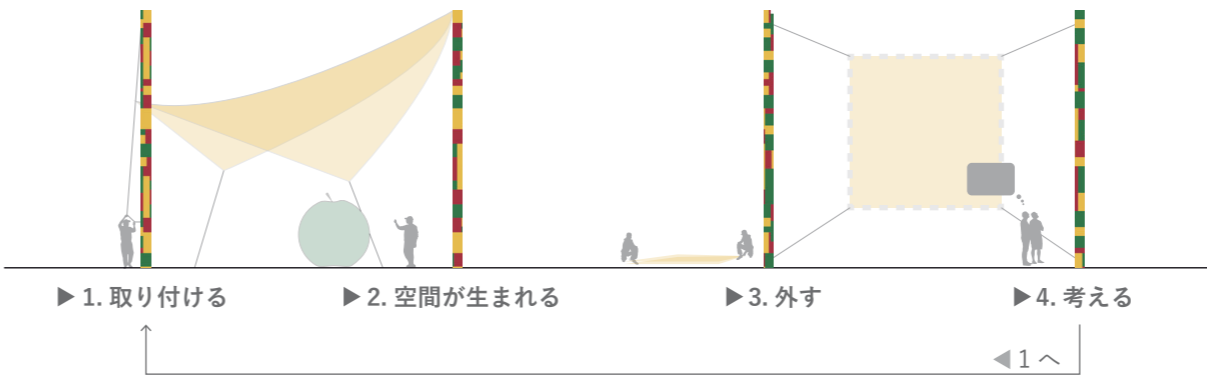
Art Pole に括りつける布 (Cloth) の張り方には以下の4つがある。

- 1 Cloth = Art** 布自体がアートであり、街中にキャンパスが出現する
- 2 Cloth = Wall in Museum** 各アート作品にとって最適な空間をを演出する
- 3 Cloth = Picture Frame** 街自体をアート捉え、街の一部を切り取る
- 4 Cloth = Space of Museum** 空間を仕切りイベント会場や憩いの場を創出する



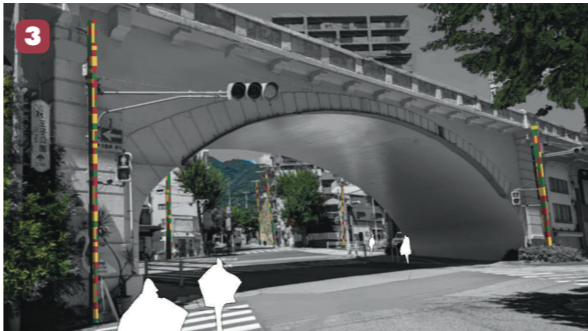
「灘駅前北広場」ワークショップ・屋台が Art Pole によって開設され、動物と人間のパフォーマンスを見ることができる

Temporary Exhibition



ミュージアムには常設展示と企画展示がある。ミュージアムロードにおいては、街そのものやパブリックアートを常設展示と捉える。布によるアートや布によって生まれる芸術文化活動は企画展示であり、ミュージアムロードの空間が企画展示的にデザインされ変化する。

Art Pole は常設展示及び企画展示の空間をより豊かにするミュージアムロードの設備である



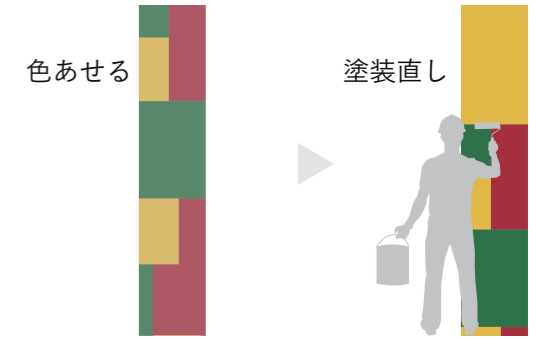
「灘駅前拱橋」壁画プロジェクトなどが行われるため布はかけずに Art Pole で風景を切り取る



動物の現寸大アートと背比べをしながら「王子動物園」へ

Maintenance

Art Pole にはコンポジションの柄が用いられている。着色された Art Pole のメンテナンスには色の塗装直しが必要である。ミュージアムロードにかかわる人々の主体的な修復作業が必要となり、修復行為そのものが灘のまちの文化の中に取り込まれる。



コアラのオブジェが Art Pole にしがみつくとお土産屋さんが歩道空間まで飛び出す

